

中道北小学校移転 保護者説明会 会議録

日	時	平成28年8月4日（木） 午後7時30分～8時45分		
場	所	中道北小学校 体育館	当日参加者数	20人 (報道含)
教育委員会	長谷川教育長・数野教育部長・嶋田教育総室長・深澤総務課長・村田総務課課長補佐・鷹野総務課係長・小尾学事課係長・生原学事課主任			

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 住民説明会の経過の説明
- 4 候補地とその理由の説明

- 5 意見交換

保護者 場所に関しては、いろいろメリットもあると思うが、一番気になっているのは児童館から離れるということが親としては不安であり、候補地移転とともに、児童館の移転についても平行して議論をしてほしい。先日も突発的なゲリラ豪雨の中で見守りメールも発動されたが、親としては見ることが出来ない中、児童館が離れてしまうことは、低学年の親は非常に心配になるので、児童館と駐在所の移転について平行して議論してほしい。

教委 現在の候補地案については、既存の児童館を利用することを考えている。しかし、この場所ではなく、もっと離れてしまうということであれば、今後、検討していかなければならないものであると考えている。

保護者 それは確定であり、今の予定地から動かないという市からの説明ということなのか。検討もしない、意見も吸い上げない、すでに決まっているから駄目だということなのか。

教委 駄目だということではないが、今の場所では、通える範囲であると考えている。当然、ご意見を伺う中で検討が必要であれば考えていかなければならないが、今の段階では、既設の児童館を考えている。

ご意見のひとつとして受け止めるということでご理解願いたい。

保護者 通過時間が3秒程度とあるが、1時間に何本程度、何分間隔で通るのか。

教委 JRからは詳しい情報が出ていないので、正式には回答できない。

保護者 騒音がどれくらいになるか分からないのか。

教委 通過時、約200m離れた地点だと73デシベルであり、掃除機の音くらいを目安である。候補地案についても、校舎の想定場所だと約170mくらいであるのであるので同程度と考えている。

保護者 1時間に10本も20本も通れば、平均値は上がると思うが、学校環境衛生基準をクリアすることが出来るのか。

教委 5分間の平均である等価騒音で推計をしており、先ほどの73デシベルや最大値の55デシベルなどを平均していくと基準をクリアできるのではないかと推計している。

保護者 あくまでも、そうなるのではないかという仮定の数値ということか。

教委 今の状態は、フードが架かっていない状態であり、フードが架かれば13デシベル位は下がると見込まれるので、教育委員会としても、JRにフードの要望や、当然建物についても考えていきたい。

保護者 リニアが開通してからフードの要望を出しても遅いので、最初からフードをかける予定で話を進めてもらいたい。

教委 教育委員会としても騒音は想定されることであるので、リニアが出来る前から、JRに要望しているつもりでいる。

保護者 それに対してJRからは、フードを架けると回答は無いのか。

教委 ない。

保護者 中道南小や山城小などは児童館が隣接されている。候補地案の場所に児童館を移設することが出来ないのであれば、児童館、駐在所があるAエリアに小学校を建設してほしい。下曽根の方からしてみれば遠くなってしまい、低学年の子供のことを考えると親からしてみれば不安な面も多々あると思うが、防災の面から見ても、下曽根の方は笛南中学校があるが、白井の方はBエリアになっても遠くなりすぎ防災の意味がなくなってしまう気がするので、極力Aエリアの方が良い気がする。

教委 ご意見がAエリアということで、教育委員会としても児童館、駐在所があり環境としては良い面がある。しかし、先程も説明させていただいたが、国の事業があり、なかなか難しい面があるため、このエリアは外した経過がある。

保護者 リニアが国家プロジェクトの一環であり、この地域も国の事業ということであるが、国家プロジェクトであるリニアが通るといことで、国にお願いは出来ないのか。

防災の面も考え、先日のゲリラ豪雨の際も児童館が近くにあれば心配もなくなる。学校もゲリラ豪雨に対応していただきありがたかったが、低学年については帰宅途中であり、ずぶ濡れで帰ってきた子供もいたので、そういう点では児童館が近くにあってほしい。防災についても、地震や富士山噴火の可能性も想定されるので、現在のBエリアよりもAエリアの方が親の心配は無くなるような気がする。

教委 児童館の問題については、重要な問題として検討していきたいと思うが、文部科学省と厚生労働省が協力して実施する事業がある。今ある放課後児童クラブは、両親が共働きでないと入会資格がないが、全国的に放課後の安全安心の居場所が大きな課題となっている。文部科学省で実施している事業である放課後子供教室があり、これについては無料で誰でも入ることが出来る。こういった安全安心な居場所づくりを学校の中、あるいは児童館など様々な形で行っている。樋口市長も放課後子供教室の拡充や放課後児童クラブと一緒に活動することを進めており、昨年は新紺屋小学校で一体化の活動を行ってきたところである。中道北小学校についても、安全安心な居場所づくりができればと思っている。小学校についてはリニアが通ることにより、今の学校と同程度の補償はあるが、リニアにまったく関わらないものについては、すべて市の単独経費となってくるので、優先順位を付ける中で、中道北小学校の安全安心な居場所づくりを進めていきたいと考えている。

保護者 若干矛盾を感じる。放課後の居場所づくりは大事であるが、居場所となる場所が問題であると思う。居場所はつくるが、学校なのか、離れた児童館なのかそこは明言せずに場所はつくるという説明なので納得し兼ねる。大事なのは居場所づくりではなく安心な場所であると思う。併設して児童館をつくるということは市として教育委員会としてやらなければならないことである。それが今通っている児童だけでなくこれから通う児童の親としての責務であると思う。教育委員会も重要事項を後で考えるのではなく、親としては、それが一番の重要事項であるので検討いただきたい。

教委 先ほどの放課後子供教室についてはなるべく学校の中で、空き教室を使って実施することを考えている。甲府の小学校1、2年生については、1学級30人であり、31人になると2クラスに分けなくてはならない。3年生以上は35人学級であり、1人増えると教室を増やさなければならない。というように教室に変動があるので、その分を飲みこめないと出来ないが、原則的には学校内に作りたくて考えている。

保護者 先ほどの説明の中で、Aエリアは国の事業の対象地域で農振の除外ができないとのことであるが、エリア全体が対象地域なのか。

教委 Aエリアについては、全てが対象となる。

保護者 農振の除外が難しいとのことであるが、可能性はゼロなのか。

教委 農新の除外という点については難しいが、別の方法で収用という方法がある。この収用については手続きに時間がかかる。土地収用法というものがあり、これは公共事業を行う場合に、その土地の必要性を認めて、土地の取得、使用を認める制度である。この認定によって、土地の所有者が譲渡を拒んだ場合においても、収用委員会の手続きを取ることで、所有権の移転等を行うことが出来る。学校用地にする高い必要性、その他以外に適切な用地がない場合、やむ終えない事情を認めた場合、農振法よりも優位性のある土地収用法を利用することによって学校用地として可能となる。ただし認定を受ける手続きが必要になる。

保護者 必要があれば認定してできるということであるが、今の候補地に建設するよりも、児童館や駐在所の関係をみるとAエリアの方が良いのではないか。認定を受けるのは市の機関で行うのか。期間的にはどのくらいかかるのか。

教委 収用の認定を行うのは県になる。期間的にははっきりと決められているわけではないが、一般的に、特に公聴会などの求めが無くても1年はかかると考えられる。公聴会は、住民側がその土地を収用する理由について説明を求めるものであり、その手続きが始まるとさらに半年や1年というかたちで期間が延びることが考えられる。

保護者 子供を保育園に通わせるようになって初めて児童館というものを知ったが、候補地案の場所に学校を建設するとしても児童館は移転できないとのことであるが、児童館自体の耐震など安全性の面などは問題ないのか。

教委 耐震性につきましては、問題ない。

保護者 この北小学校に通っていた。Bエリアの教育委員会が候補地としている場所は、中央道とリニアに挟まれており、3階の目線が中央道と同じくらいと覚えており、土手の音は聞こえていたが、中央道からの騒音や景観については、あまり気にはならなかった。しかし、候補地の場所は、目の前が中央道であり、校舎からは離れるとは思いますが、インターの近くでもあるので、学校の移転を考えたときには中央道は近いと思う。家の真横を中央道が通り、正直うるさい状況である。トラックや車の響いてくる音は小さい頃から経験している。中央道の音は授業をしていても気になると思う。土手が横にあり、後ろにリニア、前には中央道という場所はかなり気になる。下曽根の方もいるが、児童館のことも踏まえてAエリアが良いのではないかと思う。

リニアが通ることにより、北小の問題が出てきているのであれば、手続き等大変な面はあると思うが、Aエリアは住宅も近く、安全面についても良いのではないかと思う。

教委 重要なお意見だと思う。教育委員会として気になっている面があり、児童館、駐在所が近くにあるというのはとてもよい環境である。しかし、リニアから近いという面もあり、候補地案よりも近くなるということが気になるところであるが、騒音については、教育委

員会が現状で推測する段階では、5.5デシベルでは大丈夫ではないかと考えている。しかし、中央道がうるさいということであれば、教育委員会としても中央道の管理者に要望をしていきたいと考えている。

保護者 今日の説明会は、資料や話を聞いていると現在の候補地案で決定のように聞こえてきて、皆さんの意見を聞いてはいるが、結局は駄目であると聞こえてくるので、この説明会に意味があるのかと思ってしまう。学校というのは、子供が安全に勉強できる場所であり、市や国の都合で場所を選ぶのではなくて、児童館が近くにあるなど、子供にとって良い環境ということを守ってほしい。Aエリアで可能だと思うし、そこに努力をしてくれてもいいのではないかと。Bエリアが本当に子供にとって最適な場所なのか。市の都合、国の都合で選んでいる面があるのではないかと。子供を通わせるにあたっては、児童館や駐在所が近くにあるほうが良いと思う。

教委 子供の教育環境というものは教育委員会でも大事であると考えている。本日の説明会は、場所が決まっているということで説明をしているわけではない。様々なご意見を吸い上げていく中で、最終的には判断していきたいと考えている。

この場所で決まっているわけではない。学校建設は、どこの場所に決まったとしても最善を尽くしていくことを考えている。

保護者 今回のBエリアの候補地案は、移動する可能性もあるのか。

教委 先ほどAエリア、Cエリアについては外した説明をさせていただいた。ただし、Bエリアの候補地に決まったというわけではない。

保護者 Bエリアだったら移る可能性があるのか。

教委 皆さんのご意見を聞く中で判断をしていきたいと考えている。

保護者 Bエリアの候補地案は防災の拠点としているが、リニアの高架が地震など起きた場合、倒壊の恐れがあると思うが、そうすると道がふさがり白井や上曽根の人達は、防災の拠点である小学校に行くことが出来ない可能性があるがどうなのか。

教委 確かにリニアが絶対に倒壊しないというわけではないが、教育委員会としては、候補地案となった場合については、避難所として考えていきたいと思っている。このようなご意見もあることから、防災の担当と協議をしながら避難所というものを決めていきたいと考えている。

保護者 移転のスケジュールなどもあることからAエリアは困難だということだが、それならば、間に合わない何年かは、スクールバスで南小に通わせ、Aエリアの可能性を探るとい

うことは出来ないか。

教委 今のご意見の案もあるかとは思いますが、それを皆さんが良いとするかは、今の段階では確認することが出来ないで、そのような意見があるということ承ったということでご理解いただきたい。

先ほどの、1時間に何本くらい通るかというご意見で、JRからの正式なものはないと回答したが、平成25年当時にJRで公表したものについては、ピーク時に1時間に5本程度とある。基本的には片道ではないかと思う。

保護者 自宅が中央道から近く、パトカーの追跡の音などがすごく聞こえて結構うるさいので言わせてもらう。

保護者 児童館の問題で移転が困難というのは、補助金で建設していると思うが、それで、借金の返済期間が残っているので移転が不可能なのかどうなのか。

教委 そういうことではない。必要があるのであれば移転を考えていく。教育委員会としては、現状の児童館を使用していただければ良いと考えてはいるが、皆さんの使い勝手などによってどうしても近隣でなければ困るということであれば、それは検討していかなければならないと考えている。

保護者 今の学校の南側の土地は児童館を建てる事が出来るのか。南側の土地は、市のものとして残るのか。農済側に児童館を建てる予定などはないのか。

教委 分断された土地の利用については、検討されているわけではないが、甲府市の土地としては残る。そこにどうしても建てなければならないということであれば、建てることは出来る。

保護者 Bエリアありきで話が進んでいるという話を聞いていたが、Aエリアは農新の網がかかっていて、Cエリアは南過ぎるので候補地外、残るのはBエリアしかないとう、ありきの話で進んでいるように思っていたが。

教委 第1回目の説明会で、土地が空いている場所としてA、B、Cを示させていただいたが、ここが候補地であるという示し方ではない。第1回の説明会の中で、皆様から、教育委員会の案はないのかという意見を受け、第2回目の説明会において、第1回の意見を踏まえる中で、候補地案を示させていただいた。

保護者 もう少し東側という意見はなかったのか。この辺は、父が通っていたときは、雨が降ると田んぼの状態になり、笛吹川からの砂を運んできて土を埋めたという場所で泥沼のような状態になるところに小学校を建ててよいのかという思いがあった。

教委 実際のグラウンドの整備については、しっかり対応をしていくつもりでいる。

保護者 現時点でこの地盤がどうなのか分かっているのか。杭を打っても何十mも入っていくと聞いたこともあるので。

教委 具体的な数値は分からないが、決まった建設場所については、地盤の調査をして対応していく。

保護者 数値が出た場合、各児童の親にもう一度説明会をするのか。建設のための説明会をする予定はあるのか。

教委 場所が決まり、こういう学校を建てていきたいとなったときには、保護者の方にどのような機能が必要なのか、要望等聞いていきたいと考えている。いずれそのようなかたちで説明会は開きたいと考えている。

保護者 小学校の跡地について資料には何も書いてなかったが、皆さんが心配している児童館の移設というのもひとつの案ではないかと思った。

教委 JRが買い取る用地については、校庭の22m軌道の範囲だけである。それ以外は甲府市の所有となる。跡地については、まだ決まっていない状態である。

教委 保護者の方のご意見としましては、Aエリアが適切であるという意見が多かったこと、また、児童館が近くに必要だという意見も多数出たことも承知したので、今後、検討させていただきたいと思う。

6 閉会